

道徳科通信

2023 no.

5

光村図書



〈特集〉令和6年度版 小学校「道徳」

新しい『きみが いちばん ひかるとき』を紹介します！

〈連載〉

知って役立つ発達心理学⑤ ……11

渡辺弥生

道徳授業で哲学鍋を⑤ ……12

芒野一徳



新しい『きみが いちばん ひかるとき』を紹介します！

いよいよ、令和6年度版の新しい教科書が完成しました。

これまでの教科書を厳しい目で見つめ直し、子どものために、先生のために、

教科書に何ができるかを問いながら、磨き上げてきた教科書です。

今回は、教科書作りにご尽力いただいた、編集委員の先生方に新版教科書をご紹介します。



道徳科教科書は、子ども一人一人が自分らしい心磨きをするための宝箱

田沼茂紀

令和6年度から、道徳が教科になって7年目に入ります。教科書の発行も3回目となりました。教科化当初は、教科書教材の使い方や学習評価にとまどいが見られましたが、どんなふうに学びをつくれば、一人一人の成長の見取り(学習評価)ができるか、ということについて、各学校現場で着実に実践が積み上げられてきたように思います。

いっぽうで、教師主導の価値伝達型の授業が、まだまだ多いと感じています。「令和の日本型学校教育」で目指しているのは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」です。子どもたちが自ら価値を探究していく道徳科授業、すなわち、「主体的な学び」ができているかを、今、再点検することが必要ではないでしょうか。

光村図書の新版教科書は、原点に立ち返り、子どもたちが教材を通して学び深める中で、どのように主体性を発揮し、自分自身を見つめていくのかをじっくり考えながら、作り上げてきました。

道徳科の学び方とは

学習指導要領では、「道徳的諸価値の理解」をもとに、「道徳的な資質・能力」を培っていくことが述べられています。道徳的な資質・能力を形成していくことによって、道徳的諸価値の理解もいっそう促進されるのです。教師主導で道徳的価値の理解のみを追求するのでは、受動的な学びにとどまり、能動的な学び手は育たないでしょう。能動的な学び手となるために大切なのは、「自らの道徳的問いに気づく力」、「自分事として価値づけを深めていく力」、「自分事として納得して価値を受容する力」です。

新版教科書は、こうした、道徳科の学び方（モラルラーニング・スキル）を身につけられる教科書になっています。

例えば、各学年の第2教材には、教材の下段に「道徳の学び方」という特設枠があります（本誌 p.3 図版参照）。その中では、道徳科の学びのプロセスを解説しています。

また、問いを「自分事」として深めるための、思考ツールや、役割演技等の体験的な学習など、個別最適な学び、協働的な学びのための手立てやヒントも随所に盛り込みました。教師が価値を教えるのではなく、子ども自身が、価値を見いだし、教材を通して自らの学びをつくることのできる、そんな構成になっています。

学びをつなぐ

学習を「つなぐ」ということも、重視したことの一つです。道徳科の授業を1時間完結で考えるのではなく、年間35時間、そしてその先へと、1時間1時間がつながっていかなければなりません。「ウェルビーイング (well-being)」というキーワードを目にする機会が増えましたが、個人・集団・社会の、今よりも望ましい在り方を実現していくためには、継続的な学び、つまり、一つ一つの学びを結び付けていく姿勢が大切です。

新版教科書は、年間を緩やかに3つのまとまりに分け、教材を配列していますので、学びのつながりを意識しやすい構成となっています。また、3つのまとまりの中には、光村図書が特に重要だと考える現代的な課題（いじめ問題、環境、情報モラル、共生）を深めるユニット（教材とコラ

ムのセット）も、年間4か所組み込まれています。

このように、学習内容の適切なつながりを考えた配列と構成がなされていますので、もちろん教科書の配列順に使っていただくことも可能ですし、これをもとに、各学校の実態に合わせてアレンジしていただければ、カリキュラム・マネジメントにもより取り組みやすくなるのではないのでしょうか。

道徳科の学び方、学びのつながりといった、全体的な視点からお話ししましたが、もちろん、一つ一つの教材の質の高さは折り紙付きです。まさに、「自分らしい心磨きをするための宝箱」だといえるでしょう。幾つもの学校を回っていますが、道徳科の授業を少しずつ改善していこうと努力されている熱意ある先生方に多く巡り合います。そんな先生方の期待に応えられる教科書になっていると自負しています。

田沼茂紀 ●たぬましげき

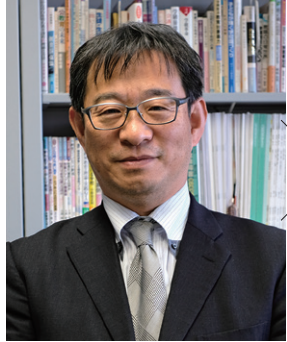
國學院大學教授(道徳教育学・教育カリキュラム論)
『道徳は本当に教えられるのか—未来から考える道徳教育への12の提言』(編著／東洋館出版社)など。
光村図書小・中学校『道徳』教科書編集委員。



道徳の学びが始まるよ

——学びの見通しと振り返り、発問構成の工夫

新版教科書では、学びを見通すこと、振り返ること、発問構成について、より丁寧な紙面を作りました。その工夫と授業での生かし方について、編集委員の杉中康平先生と中里純子先生にお話をいただきました。



杉中康平 ●すぎなか こうへい
四天王寺大学教授(道徳教育学、教育実践学)
『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』(編著／ミネルヴァ書房)など著書多数。光村図書小・中学校『道徳』教科書編集委員。



中里純子 ●なかざと じゅんこ
神奈川県横浜市立笠岡小学校校長
横浜市内の公立小学校勤務の後、横浜市教育委員会等を経て、現職。光村図書小学校『道徳』教科書編集委員。

「道徳が始まるよ」 ——継続的な学びと道徳科の学び方

杉中 教科書を開くと、「道徳が始まるよ」*¹という楽しそうなページが、まず目に飛び込んできます。このページは、2年生以上の第1教材として設定されていて、『道徳で学ぶ〇〇のとびら』*²、『みんなで気持ちよく話し合うためのこつ』、『道徳みちあんない』*³の3つの見開きページから成ります(下図版参照)。ここで、1年間の道徳科での学びを概観することができます。

中里 新年度を迎えて新しい教室に入ると、子どもは、不安や緊張を感じるでしょう。しかし、新しいことに対する期待も抱いています。そんな子どもたちに、1年間の道徳科の

学習にわくわく感をもたせるのは大事なことです。から、「道徳が始まるよ」は、とてもよい試みだと思います。特に、『道徳みちあんない』のページは、双六のよう^{すごろく}で楽しいですね。例えば、教科書に登場するキャラクターのきりりん、こころん、もやもやんをコマにして進め、止まったところの教材を開いて、絵を見せたり、話を想像させたりすると、学習への期待を高めることもできます。

杉中 『道徳で学ぶ〇〇のとびら』や『道徳みちあんない』のページは、そんなわくわく感を高めるとともに、道徳科が「継続的な学び」である意識させる役割もあります。私は、道徳が、道徳「科」となったとき、最も大きな変化は、「継続的な学び」の視点がもてるようになったことだと考えました。1時間1時間が切れているのではなく、年間35時間(1年生は34時間)の大きな流れの中で一つ一つの教材がつながっている。このことを、これらのページを使って、子どもたちに伝えてもらいたいですね。

中里 「継続的な学び」という視点は大切ですね。それから、道徳科では、

物事を多面的・多角的に考えるためにも、話し合う活動が欠かせません。「道徳が始まるよ」の中の『みんなで気持ちよく話し合うためのこつ』というページでは、まずは相手を受け止める、傾聴を大切にするなど、学年に応じた「こつ」が示されています。

杉中 「こつ」を確認した後、すぐに「やってみよう」というコーナーが用意されています。実際に対話や話し合いがしやすい、学年に応じた課題を設定しています。例えば、3年生は、「ありがとう。」と言いたくなるときについて話し合います。第2教材以降に先駆けて、対話のトレーニングをすることができます。

中里 話し合いや対話の「こつ」は当然、一朝一夕で身につくものではありません。先生方も、折に触れて指導されていると思います。そのポイントが、教科書の初めに提示されているのはよいですね。道徳科でも、「学び方を学ぶ」ことは大切なことです。最初に学び方について意識させ、日々、教師が評価して、定着させていくことが大事ですね。

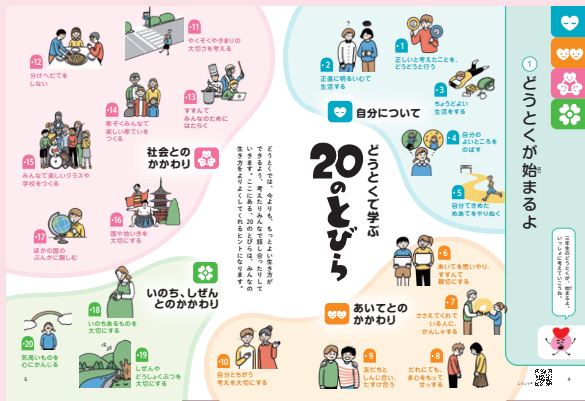
杉中 今、「学び方を学ぶ」という大

切な言葉が出ました。第1教材の「道徳が始まるよ」の後、通常教材に入っていくわけですが、第2教材では、教材の下段で、「道徳の学び方」を説明しています。実際の教材に取り組みながら、どんなところに着目して読んだらよいか、自分にどのような引き付けて考えればよいかを順に説明しており、学習にスムーズに入っていける設計になっています。

中里 1年生については入門期なので、2年生以上とは異なるページ作りがなされています。第1教材の前に置かれた1年生用の「どうとくがはじまるよ」から第5教材にかけて、道徳科で何を学ぶのかや、話し合いの大切さなどを、先生が子どもたちにじっくりと伝えられるようになっています。

杉中 各学年、1年間の学習の始まりにあたって、道徳科が継続的な学びであること、そして、どんな学び方をしていくのかを、きちんと押さえられる設計になっていますね。何より、道徳科への期待感が湧き上がってくる、そんな紙面になっているのがよいですね。

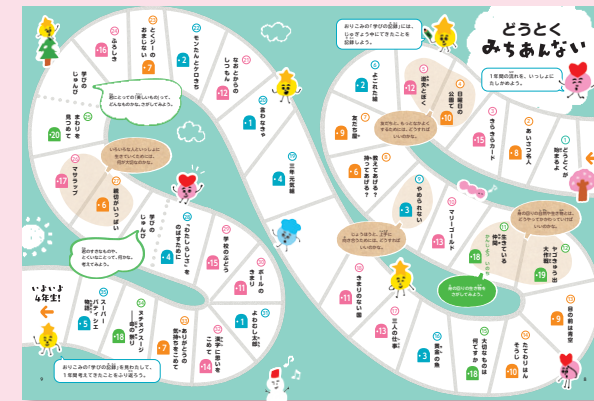
第1教材「道徳が始まるよ」(3年p.4-9)



1見開き目「道徳で学ぶ〇〇のとびら」
その学年で学習する内容項目(テーマ)を一覧できるページ。
(〇〇には、学年で学習するテーマの数が入る。)



2見開き目「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」
対話や話し合いの「こつ」を押さえ、「やってみよう」でそれを確かめながら、簡単な話し合い活動を行う。



3見開き目「道徳みちあんない」
1年間で学習する全教材を見渡せるページ。

第2教材「あいさつ名人」(3年p.10-13)



上段に教材、下段に「道徳の学び方」(3年生以上)を提示。

「学びの記録」 ——自己評価の大切さ

杉中 学びの見通しをもつこととともに、大切なのは振り返りです。教科書の巻末には、折込で「学びの記録」(下図版)があります。このシートに、1時間1時間の学びの振り返りを記録していきます。学期末、学年末に振り返り、自分の学びを一目で見渡せるのは効果的です。まさに、「継続的な学び」を実感できるのです。

中里 「学びの記録」も、学年に応じた工夫がなされていますね。1～4年生はシール、5、6年生は一言感想を主にしています。とてもいいと思うのは、**振り返りの視点がきちんと示されている**ことです。1～4年生は「たくさん考えた。」「よく聞いた。」「もっと〇〇したい。」という視点。5、6年生は、「自分のこととして考えることができた。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが深まった。」「もっと考えたい、やってみたいことが見つかった。」という視点が挙げられています。

杉中 振り返りに時間をかけずに、無理なくできるのがよいですね。「友達の考えを聞いて、自分の考えが深まった。」という視点が入っているのは、第1教材の「道徳が始まるよ」で重視した「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」とリンクしていて、効果的です。

中里 子ども自身にとって、自己評価はとても大事なことです。「自分は〇〇ができています」と感じることは、**自分の成長を感じ取る**ことにほかなりません。例えば、学期の区切りの振り返りでは、心に残っている教材は何か、その教材ではどんな学習をしたのかと教師がきいてあげる。学年末の振り返りでは、道徳科の学びを通して、1年間で成長したのはどんなところかときいてあげる。少し大きな視点から、自分自身を評価することが大事です。1年間の振り返りで「学びの記録」が完成したとき、子どもは充実感を覚えるでしょう。こんなにたくさんのかを1年間学んできたんだ、心も成長してい

るんだ、と。そんな振り返りの時間を、教師が意識して設定することが大事です。

杉中 教師は、ずっと同じ子どもたちに付き合うことはできません。共に学びを続けて、子どもたちがそれぞれ巣立っていくそのときまでに、自分で自分の生き方や在り方をしっかり考えることができる子にしてあげたい。子ども自身が自分の生き方を**しっかり考える**こと、それが自己評価の本質です。教師が子どもに評価を伝えるというのも、子ども自身の心を肥やすための一つの方法です。

中里 そうですね。子どもにとって、自己評価は、**自らの成長を感じ、自信をもち、そして、気持ちがいいなと思える**ことです。子どもが自己評価できたときに、教師はすかさず、「自分のことをよく考えられたね。」と言ってあげたいですね。そんな教師とのやり取りの中で、子どもは自己評価ができるようになっていくものだと思います。

「考えよう・話し合おう」 ——対話の入り口としてのてびき

中里 ねらいとする価値を子どもたちにつかませるために、教師が教材をどう料理していくか。これは大切なことですが、経験の浅い先生にとっては大変なことです。まず大事なのは、**毎時間、一定の水準の授業を積み重ねていく**ことです。そのためには、教科書のてびきが、きちんと授業で使えるものになっていることが大切です。

杉中 光村図書のとびきは、基本的に3つの発問で構成されています。それは、次の3つの観点に基づいています。

- 1 〈道徳的な課題を捉える発問〉
主人公の道徳的な問題は何か。
- 2 〈中心的な発問〉
道徳的な課題に対して、主人公はどのような気づきをしたのか。
- 3 〈まとめの発問〉
道徳的価値を自分と結び付ける。

1時間の授業を行うには、これらの観点が不可欠です。てびきを一つの

柱にして、さまざまに授業展開を考えてほしいと思います。

中里 ねらいに迫るための基本的な発問をもとに、「揺さぶり」や「問い返し」の補助発問を入れるなど、目の前の子どもたちに適した問い方をアレンジしてほしいですね。

杉中 そうですね。てびきの発問は、**子どもたちの主体的な議論の入り口**です。入り口からさらに話し合っていけるように、教師が適切な二の矢、三の矢の、**追発問を重ねていくことが大切**です。教科書のてびきが一定水準の授業を保障するものとはいえ、教科書どおりの発問をそのまま提示すれば授業が成立するほど、道徳科の授業は甘くありません。**子どもどうしの主体的な対話**を、どう展開していくかは、教師が経験を積みながら試行錯誤し、作り上げてほしいところです。そして、そこが、まさに道徳科のおもしろいところでもあります。

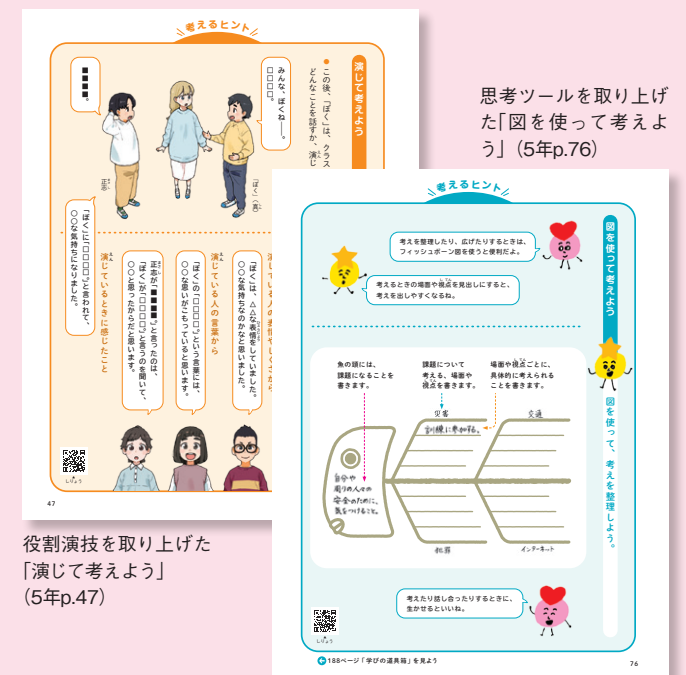
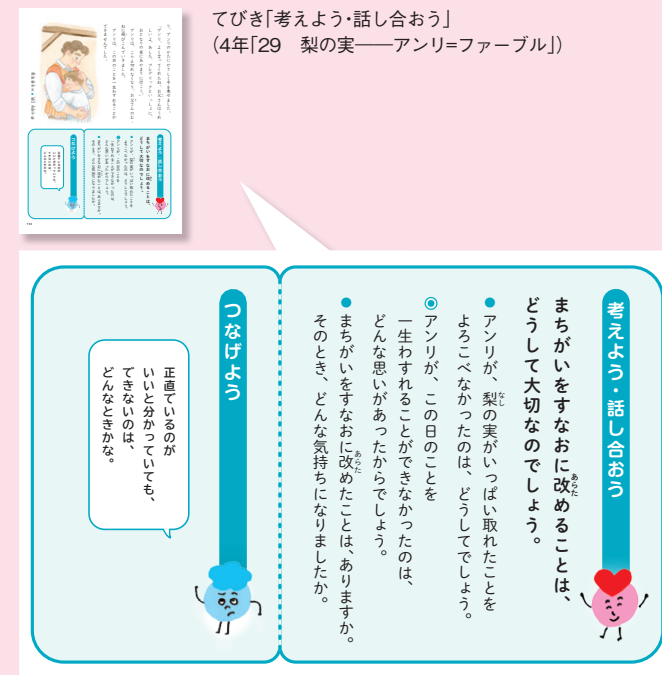
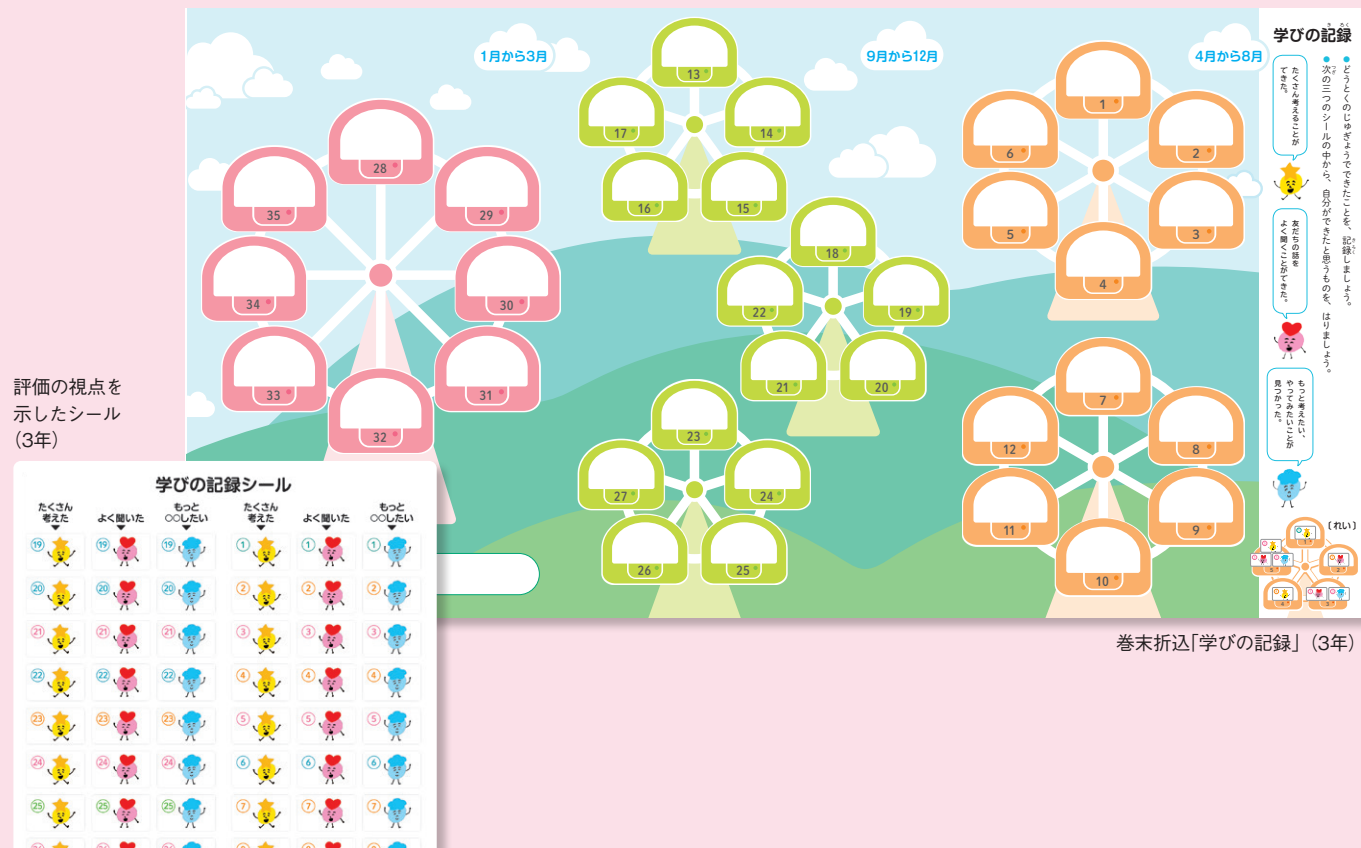
中里 新版教科書には、通常のとびきの他にも、子どもの対話や思考を

促す工夫が随所に見られます。幾つかの教材では、**思考ツールや役割演技、話し合い活動の例**(下図版)などが示されていますね。誤解を恐れずにいうと、道徳科の授業はマンネリ化しがちなところもあります。そんな中で、こうしたツールや活動を紹介してくれるのは、意欲的な先生にとっては、助けになると思います。

杉中 教科書に載っているそれらの活動をヒントに、新しいアイデアがひらめくかもしれませんよね。全国の先生方が新しい試みを共有していけば、道徳科の学びがますます豊かなものになると思います。

中里 子どもたちの成長に資する教科書であると同時に、教師も力をつけることができる教科書になっていますね。

杉中 全国の教室で、よりよい道徳科の時間が実現するよう、お互いががんばりましょう。



1年

「11 かぞくとおはなし」

(C 家族愛、家庭生活の充実)



ゾウ、サル、ペンギンなど、動物の家族の写真を見て、家族について考える教材です。私たちは、どうして動物の写真を見て、家族の愛情を感じ取ることができるのでしょうか。それは、動物たちの姿に、自分たち人間を重ね合わせているからです。子どもたちは、動物の子どもに自分を投影して、親に守られ愛されている感情を思い起こすのでしょうか。だから、動物たちがどんなお話をしているのか想像してみると、本当にいろいろ出てきます。「遊ぼうよ。」「お母さんのおなか、あったかいなあ。」「今日ね、こんなことがあったんだよ。」など、みんなで伝え合うだけで、クラス中がなんだかほんわかった温かい空気になっていきますよ。



尾崎先生

新版教科書

この教材に注目!

新版教科書では、漫画や写真、対話や話し合いを組み込んだものなど、バラエティに富んだ教材を用意し、子どもたちが自然に考えたいくなる教科書を目指しました。そんな教科書の中から、編集委員の尾崎正美先生と荒木寿友先生におすすめ教材を伺いました。

尾崎正美 ●おざき まさみ

岡山県瀬戸内市立国府小学校主幹教諭。公立小学校、岡山大学教育学部附属小学校教諭を経て現職。光村図書小学校「道徳」教科書編集委員。

荒木寿友 ●あらかき かつとも

立命館大学大学院教授(教育学、道徳教育)。主な著書に『いちばんわかりやすい道徳の授業づくり』(明治図書出版)など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。



「9 どきどきしたけど」

(B 親切、思いやり)

「人に優しくできる自分でいたい。」2年生の子どもたちも、たいていそう思っています。しかし、相手から求められていないのに自分から親切にするのは、意外と勇気のいるものです。親切はいいことなのに、どきどきするなんておかしい気もしますが、きっとみんな初めての親切はどきどきしたものでしょう。そんな「どきどき」をクローズアップした教材です。人に親切にすると、どきどきするのは自分だけじゃないんだ。そんな気づきを授業でもてたら、子どもたちは、親切にすることへの勇気が高まっていくでしょうね。

2年



尾崎先生



ダニエル



セサル



マリオ



「17 三人の仕事」

(C 勤労、公共の精神)

3年

仕事とは、いろいろな立場の人の協力で成り立っています。この教材では、石橋を造る仕事に携わる三者の視点を取り上げました。ダニエルは、みんなのために働く人。セサルは、仕事の精度を高めることを追求している人。この二人の視点には、多くの子どもが気づくことができるでしょう。二人とも、石橋造りそのものに役立つスキルをもっている人だからです。マリオは違います。重い石も持てないし、設計図を考えることもできない。でも、働く人たちを支えることはできる。そういう働き方もあるのです。直接仕事に関わっているようには見えない人も、その人なりの関わり方で大事な役割を担っている。子どもの頃から、そういう働き方にも目を向けてほしいと思います。



尾崎先生

4年



「18 決めつけてないかな」

(C 公正、公平、社会正義)

人は、ついレッテルを貼って人を見てしまいがちです。この教材は、そんな日常生活にありそうなレッテルを3種類描いています。「親子だから……」「転校生だから……」「男の子だから……。」と決めつけることは、その人自身を見ようとしていないことになります。社会の多様化は、これからますます進みます。そんな社会では、一人一人を大切にみつめ、受け入れていく心が必要です。授業では、自分たちの生活の中で見られる決めつけについて話題にしてみるのもよいでしょう。ぜひ、先生自身も子どもたちと共に、自分の中にあるレッテルを見つめ、考える時間としてください。



尾崎先生

「13 世界人権宣言から学ぼう」

(C 規則の尊重)

世界人権宣言には、人間一人一人を大切にしていける理念が記されています。ところが、国連での採択から70年以上たった今になっても、世界人権宣言が目ざした世の中にはなっていません。この教材を読む中で、気に入った条文を探すのもいいですし、私たちの身近な生活と関連させながら人権に関わる問題を探し、なぜ人権が大切にされていないのかを考えるのもいいでしょう。なお、1948年12月10日に世界人権宣言が国連で採択されたことから、毎年12月10日は「人権デー」になっています。その日の前後に、この教材を扱ってもいいですね。また、6年生の社会科で憲法を扱う際に関連させることでも、学びがより深まります。



荒木先生



6年



6年

「11 クジラとプラスチック」

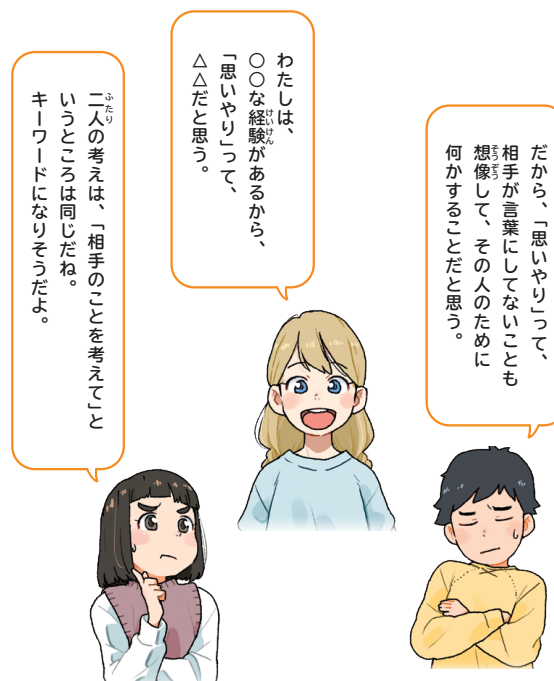
(D 自然愛護)

このクジラ、何でできているかわかりますか？「持続可能性」という言葉を耳にする機会が増えています。この教材は、人間の身勝手な生活スタイルが自然環境に大きな負荷をかけてしまっていることに目を向ける教材です。自然は大切だと単純化して考えるのではなく、自然環境を守ろうとする行動が、本当に自然環境のためになっているのかどうか、立ち止まって考えるきっかけになればと思います。「持続可能性」を考えると、そういうことです。例えば、二酸化炭素の排出量を下げするために電気自動車が販売されていますが、そのためのリチウムイオン電池の原料はどこからやってきているのか？ 総合的な学習の時間等でSDGsを扱う機会があれば、そこでの学びと関連させることも考えられます。



荒木先生

5年 6年



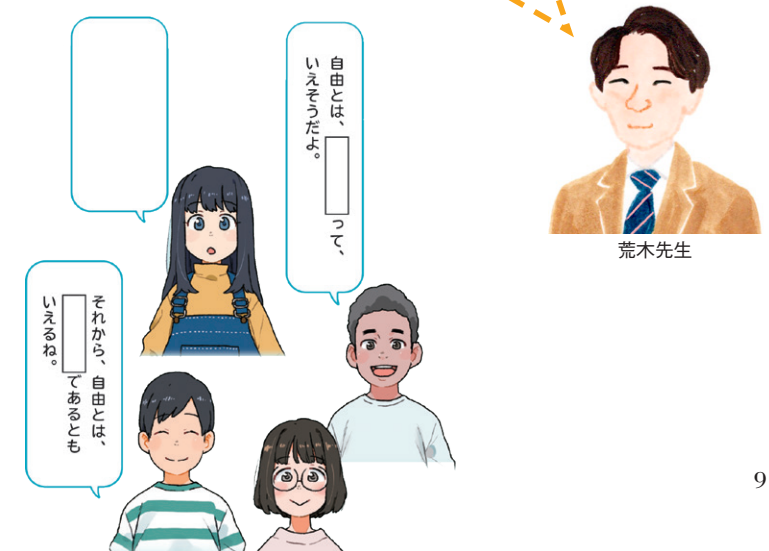
「31『思いやり』って、何だろう」

(B 親切、思いやり) 5年

「29『自由』って、何だろう」

(A 善悪の判断、自律、自由と責任) 6年

道徳科の授業の大きなねらいは、子どもたちの道徳的価値の理解を深めていくことです。多くの授業では、展開後段において、自分との関わりの中で道徳的価値を考えていきますが、これらの教材は、最初から「思いやり」や「自由」という価値について考えを深めていくところに大きな特徴があります。そして、子どもたちは単に意見の交流をするだけではなく、「少なくともこういうことは言えるよね。」と、「お互いに納得できること」を見いだすところも特徴の一つです。考え、議論する中で、話し合いの「着地点」を子どもたちが探究する授業こそ、まさに子どもたちの主体性を育んでいく授業になります。



荒木先生

子どもたちへのメッセージ

Message
for children

新版教科書では、さまざまな分野で活躍している人物を取り上げています。
子どもたちに伝えたいこと、作品に込めた思いなど、メッセージを寄せていただきました。



なかや みわさん
(絵本作家)

1年「31 『すき』 から うまれた『そらめくん』」
(A 個性の伸長)

「すき」だから、がんばれる。「すき」だから、続けられる。「すき」だから、もっと知りたくなる。そして「すき」は、心の支えになってくれる。「すき」から生まれる原動力は、時に、本人の想像を超えたすごい力を発揮する。他人からみたら、ちっぽけに思えるような小さいことでも、本人が「すき」ならば、それでいい。その小さい「すき」から、世紀の大発明が誕生することだってある。だから、「すき」の気持ちを大切にしてほしい。そして、他人の「すき」を絶対ばかにしてはいけない。



まえの こうたろう
前野浩太郎さん
(昆虫学者)

6年「28 サバクトビバッタを追いかけて」
(昆虫学者・前野浩太郎)」
(A 真理の探究)

この教材が、世の中にあふれているいろいろな話を、そのまま信じ込むのがいかに危険なことなのかを知るきっかけになればうれしいです。
行ってみないと見えてこない。やってみないと始まらない。発見は、世界中のみんなと共有できるし、半永久に残る、誇らしき知的財産です。将来の研究者たちへ一つでも多くの「知」を渡すために、これからも謎に挑んでいきます。



おくはらの ぞみ
奥原希望さん
(プロバドミントン選手)

4年「25 年賀状に書いたゆめ——奥原希望」
(A 希望と勇気、努力と強い意志)

「人生は“宝物”を探す旅だ。」そんなことを聞くと、楽しくワクワクするものを想像すると思います。そう、人生はとても楽しいものです。私は小さい頃から目標や夢をもち続けてきました。失敗もあったけれど、そのぶん宝物もたくさん見つけました。
自分の道を一生懸命進んだ先には、きっと“幸せ”という宝物が待っています。だから、みんなも夢や目標をもち、全力で一歩一歩を大切に歩んでいってほしいです。
これからの人生で、みんなが幸せという宝物をたくさん見つけることを願っています。



くにもりやすひろ
國森康弘さん
(写真家)

6年「32 恋ちゃん——はじめての『みとり』」
(D 生命の尊さ)

あなたは日々、あるバトンをたずさえ歩んでいます。
誰一人欠けなかったことで
ようやく今のあなたにつながった、
奇跡のようなそれ。
百万を超えるばあちゃんじいちゃんがつないできた、
いのちのリレーのバトンです。
また、いつか誰かに何らかの形で
手わたしてゆくためのものでもあります。
悲しくもあたたかな
恋ちゃんたちのバトンリレーのように。

道徳授業を成功させよう

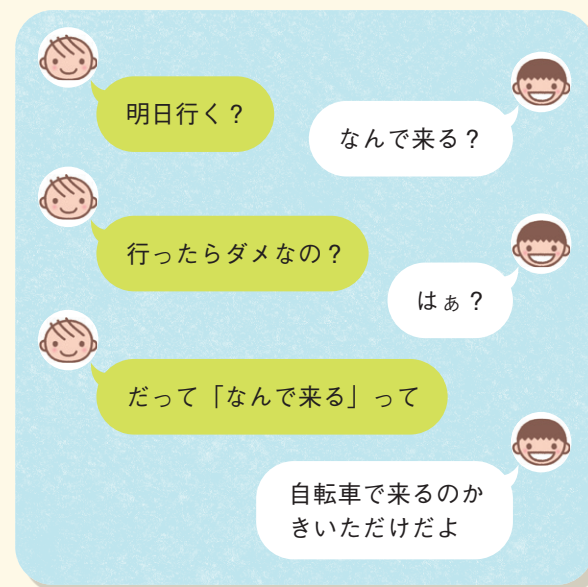
知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第⑤回 ミス・コミュニケーション——気持ちのボキャブラリーを豊かに

クラスの中で飛び交う言葉に注意を向けると、「うざい」「やばい」といった表現が多くなっていますか。SNSでのやり取りも、「明日行く?」「なんで来る?」「行ったらダメなの?」「はあ?」「だって『なんで来る』って」「自転車で来るのかきいただけだよ」……といったミス・コミュニケーションが頻繁に起きています。こうした短いインパクトのある言葉は、使い手に、互いの感情の強さが響き合う感覚を与え、どこか共感し合ったような錯覚をもたらしめます。しかしその一方で、互いの状況を深く思いやり、共感するためのコミュニケーションが阻害されてしまいます。



感情リテラシーが育っていない?

教材の登場人物の気持ちを子どもが理解できていないという問題が指摘されています。これまで、それは読解力の問題として考えられていました。しかし、実は、感情の読み書き能力ともいえる「感情のリテラシー」が育っていないのではと危惧されています。感情のリテラシーは、自分だけでなく他者の感情を適切に理解し、表現する能力のことです。自分の怒りや悲しみの気持ちをコントロールする力も含みます。教材から考

え、議論するためには、まず登場人物の「気持ちを感じる」ことが必要です。

例えば、登場人物が無視されて〈「悲しい」「怒っている」〉と感じていることを理解するには、「悲しい」「怒っている」という気持ちのボキャブラリーが欠かせません。言葉をもつことによって、初めて、他者の気持ちを理解することができるわけです。そして、それについて自分は〈「かわいそう」「いたたまれない」〉気持ちになっていると気づくためには、自分の気持ちを「かわいそう」「いたたまれない」という言葉に置き換える力が求められます。

感情のボキャブラリーを増やそう

つまり、何か体験をしたときに、自分の心の中で生じる心の振動が「気持ち」であると気づき、その気持ちを理解するためには、自分の「心的辞書」*から気持ちを同定できる言葉を取り出す力が要るのです。こうした力は自然には伸びません。子どもたちが登場人物の気持ちを答えられずにいるとき、「無視されて悔しかったのかな」「腹立たしかったんだね」などと、子どもの気持ちを代弁してやる働きかけが必要です。

いくら自分で考えさせても、子どもの心の辞書に、いろいろな気持ちのボキャブラリーがアップデートされていなければ、乏しいデータベースからは引っ張り出せないのです。「悔しい」「腹立たしい」という言葉で自分のモヤモヤした状態を表現できることに気づければ、やがては自発的に「悔しかったんじゃないかと思います」と表現できるようになります。

こうした働きかけをし、道徳的感情ともよばれる「慈悲」「感謝」「罪悪感」「恥」といった高次の気持ちの理解を育てるためには、まずは教える側の心的辞書のボキャブラリーのアップデートが必要といえます。

渡辺弥生 ●わたなべ やよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体——発達心理学で気持ちをマネジメントする』（筑摩書房）、『子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗り越えるための発達心理学』（光文社）など。監修に『まんがでわかる発達心理学』（講談社）など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。



苦野一徳

Ittoku Tomano
(熊本大学大学院准教授)



「哲学鍋」とは、みんなの考えをもち寄りぐつぐつ煮込みながら、みんながおいしいと思える味（より本質的な考え）に仕上げていく営みをイメージしたものです。



苦野一徳 ●とまの いっくとく

1980年兵庫県生まれ。熊本大学大学院教育学研究科准教授。専門は哲学、教育学。著書に『愛』（講談社）、『学問としての教育学』（日本評論社）など多数。

「希望」って、何だろう？

子どもたちと定期的に続けている「本質観取」の会。今回のテーマは、「希望」って何だろう？ みんなが納得できる“本質”を言葉にして探り出す、哲学対話の始まりです。

「希望」の本質がわかれば、どんないいことがあるだろう？

苦野 じゃあいつものように、「希望」の本質がわかればどんないいことがありそうか、皆さんの考えを聞きたいんだけど……。いきなり僕の愚痴ですみません。生きてると、やっぱりつらいこと、たくさんあるよね。最近もいろいろあってさ(涙)。そんな時、希望の本質がわかると、どうすれば希望がもてるかなって、考えていくことができる気がする。皆さんはどうだろう？

しおん (小6) 希望の本質がわかれば、将来のこともしっかり考えられるかなって思います。

苦野 おお～いいね。じゃあそのあたりを意識しながら、みんなで本質観取をやっていきましょう。

「希望」の事例を挙げていこう

苦野 まずは、これは「希望」と言えるぞっていう事例を、たくさん挙げていきましょう。いろんな事例を通して、「希望」に共通するキーワードが見えてくるはず。

ようた (中3) 冬休みの課題が直前まで終わらなくて、必死でがんばって、最後の最後で終わりそうだったという可能性が見えた時は、希望を感じますね。

全員 あ～わかる！

苦野 他にどうかな？

にき (中2) なくしものをした時に、誰かが「あそこで見たよ」みたいなことを言ってくれた時は、希望がわいてきます。

しおん この前、マラソン大会があったんですけど、途中でもうやめたくなくて。でもゴールが見えてきた時は希望をもちました。

まなた (中1) 最近、学校で合唱コンクールがあったんですけど、僕はあまり歌が得意じゃなくて。でもみんなと練習しているとだんだん上手になってきて、希望を感じました。

苦野 なるほど、いいね。他にも、もう治らないって言われていた病気の特効薬が開発された時とかも、希望を感じるよね、きっと。やっぱり、先につらさや暗さがあって、その向こうに見えてくるのが希望なのかな。

ようた トンネルの先の光みたいなイメージですね。

しおん 希望が降り注ぐとも言いますよね。やっぱり光のイメージがあります。

かなこ (中2) でも、朝ご飯の時に、



「ご飯とパン、どっちを希望しますか？」みたいな言い方、しますよね？ これって、あんまり光の感じがしないんですけど……。

全員 た、確かに～。

ようた でもその希望と、「希望の光」って言う時の希望って、意味がちょっと違うんじゃないかな～。

苦野 うん、でもこれが本質観取の難しさであり楽しさなんだけど、確かにどっちも同じ「希望」って言葉を使うんだよね……。かなこさんの言ってくれた例には意表をつかれたけど、もしかしたら共通しているところもあるのかもしれない。そんなことを頭の片隅に置きながら、本質観取をやっていただけたらいいかもね。

キーワードを見つけていこう！

苦野 それじゃあ、これまで挙げてきた事例、全てに共通していそうなキーワードを見つけていこうか。

にき 「可能性」とか「願い」とか？

ようた 「可能性」に関して言うと、絶対大丈夫な時と、絶対無理な時は、希望って言葉を使わないと思います。どうなるかわからない時に、選択肢が現れた時、僕たちは希望って言葉を使うんだと思います。その意味では、さっきの「ご飯とパン」問題も、「選択肢」という共通点があるのかも。

苦野 なるほど～。じゃあ必ずしも最初に、絶望や暗闇みたいなのがなくてもいいのかな。

にき う～ん、でも希望って言葉は、やっぱりどこかやばい状況の中で使

うものなんじゃないかと思います。そうじゃない時は単なる「可能性」って言うんじゃないでしょうか。

しおん そっか。「可能性」と「希望」って、何が違うんだろう？

かなこ 希望は自分にとってより大きなもので、可能性は小さなかたまりって感じがします。

ようた 確かに。あと、可能性って、よくなる可能性もあれば、悪くなる可能性もあるじゃないですか。でも希望だと、よくなる可能性しかないんじゃないかな。だから希望は、願望に向かう可能性って感じ。

苦野 おお、見えてきたね！ 希望とは「願望に向かう可能性」である。どう？

ようた 光のニュアンスも入っているといいんだけど……。

しおん 「願望に向かう明るい可能性」ってどうですか？ さっきようたさんが言ったように、希望って、よくなるほうにしか向かわないと思うから。

全員 いいね！

苦野 うん、言えてる気がする。

しおん ちょっと思ったんですけど、「希望する・しない」と「希望がある・ない」って、なーんかちょっと違うような気がするんだけど、どう違うんだろう？

ようた 「希望する・しない」は、願望がかなう可能性はほぼ100%で、自分で願望に近づくことができる感じ。「希望がある・ない」は、その状況の中に飛び込んでいて、可能性が

開かれているのが見えたときに使う言葉かなって思います。

苦野 うんうん、確かにそんな感じがするねえ。そういえば、希望って強弱があるよね。強く希望する場合と、なんとなく希望する場合がある。その強弱は、願望の強さに比例しているのかな。

ようた 可能性の大小にもよる気がしますね。あまり可能性がない時のほうが、より強く希望するんじゃないかな。「ご飯とパン」は、だからあまり強い希望とは言えないですね。

全員 確かに！

本質を言葉にしてみよう！

苦野 じゃあここまでの対話を通して、まとめをしてみようか。

今日のまとめ

希望とは、願望に向かう明るい可能性である。

かなこ 最初、「ご飯とパン」って、希望が小さいだけかと思っていたんですけど、可能性っていう考え方もできておもしろかったです。

まなた 希望を見いだしたい時、僕たちは、とにかく明るい可能性を見つけようと意識すればいいんですね。

全員 納得！

苦野 いやー、希望のある本質観取だったねえ！



編集部だより

この原稿を書いているちょうど今、私たち編集部は、本特集の主演となる令和6年度版小学校道徳教科書のパンフレットの作成に追われている。時間をかけ、悩み、苦しみ、ようやく作りあげた教科書だ。愛情も大きい。——この教材は子どもたちの発言に泣きそうになった。たった3行の問いを考えるのに何度も何度も先生と議論をした。ぎりぎりまで粘って素晴らしい挿絵を描いてもらった……。教材一つ一つのエピソードを思い出しては、胸がいっぱいになる。「新しい教科書のウリは？」ときかれれば、「全部です！」と答えてしまうだろう。

これまで幾度も、新しい教科書を「評価」していただく季節を迎えてきた。そのたび、「早くこの教科書で子どもたちと授業をしていただきたい！」という気持ちと、「本当に、先生方や子どもたちの価値ある学びとなる内容になっているのか」という気持ち、その自負心と不安が入り混じった思いで、頭がぐるぐるしてしまう。それは何度この季節を迎えても変わらない。

私たちが作ったこの教科書が、先生と子どもたちとの幸せな道徳授業をつくる一助となれますように、そう心から願っている。

令和6年度版

小学校道徳教科書ご紹介ウェブサイト

令和6年度版教科書の特徴・内容について、ウェブサイト上でご紹介します。

4月中旬
公開予定！



<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/06s-kyokasho/dotoku/>

- 新版教科書 3つの特色
- QRコンテンツのご紹介
- 「年間指導計画・評価計画資料」などのダウンロード資料
- デジタル教科書・教材のご紹介(ウェブ体験版)

※ウェブ体験版は、スマートフォンの場合、機種によってご利用いただけないコンテンツがあります。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

アクセスはこちらから



光村図書ウェブサイト

光村図書

検索



小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ



光村図書LINE
公式アカウント
友だち募集中！



光村図書

道徳科通信 No.5 2023年4月25日発行 内容解説資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン 鷹鷲麻衣子 イラスト カトウミナエ/武者小路晶子/霜田あゆ美 印刷所 協和オフセット印刷株式会社

●個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

【教育情報誌に関するお問い合わせ先】 住所変更・配送停止：ej1@mitsumura-tosho.co.jp ご意見・ご感想：koho@mitsumura-tosho.co.jp